

市長職員訓示

(令和2年1月6日(月) 市民文化会館大会議室にて)

「新年にあたって」

皆さん、明けましておめでとうございます。今年の正月は少し長めということで、そして天気も穏やかな日でありました。

年が明けてから、皆さんもたくさんの方々とお会いしたかと思いますが、私も新春賀詞交歓会や私の事務所に訪れていただく方々など、たくさんの方々にお話を伺うことができました。その中で一つ気になったことがありました。特に漁業の関係の方たちから海の様子がおかしいという話を伺いました。皆さんもマスコミ等でよくお聞きになっていると思いますが、水温が1℃、2℃違うということで大きな問題になっています。現場の漁師さんの話では、場所によっては4℃も5℃も違うのではないかということで、これからの漁業の行く末を憂いている方、こんな所でこんな魚が釣れるようになったと気にされている方が多々ありました。今年は3月には水産研究所が新たに完成しますが、これからは海藻のこと以外にも海の環境、中でも伊勢湾の海域のことについて、大きな役割を果たしていくのではないかと考えているところです。

さて、その水産研究所をはじめとして、今年は目に見えるものが完成してまいります。夏には市民体育館が本格的な改修を終え、秋には市民体育館の横にサブアリーナが完成します。そして来年の春には待ちに待った消防庁舎が完成します。それと並行して河内ダムの関連の工事も進んでおりますし、目には見えませんが昨年、フランスを中心に種を蒔いてきたインバウンドの関係も動きがあるのではないかと考えております。種を蒔いて終わりということではなく、皆さんで一丸となって、その施設、事業を育てていく、活用する方法を全ての課で考えていただきたいと考えております。

今年は二つお話ししたいことがあります。

一つは、この鳥羽にもともとあるものに対して価値を上げてほしいと思っています。価値というと少し曖昧ではありますが、三つの価値についてお話します。一つ目は、もともと鳥羽では有名なものに磨きをかけて価値を上げていくことです。例を挙げると行政だけが取り組んだものではないですが、トロサワラのブランド化やワカメのエコラベル認証などです。二つ目は、他の価値のあるもの二つを一つにくっつけて、別の価値を生んだり、価値を増やしたりすることです。例を挙げるとサブアリーナと文化会館の大ホールが一緒になること、水産研究所については、三重大学と一緒に研究を行うなど観光や教育

面で活用していくこと、また、鳥羽商船高専と行政が一緒になって取り組むこと、他にもクルーズ船が来た時には、中学生や高校生がガイドを行うことで価値が増すのではないかと考えております。防災面では近鉄さんと一緒に防災訓練を行ったように、観光施設などと一緒に防災訓練を行うことで、単体でやるよりも価値が上がるのではないかと考えています。そして三つ目は、価値はあるけれど、今まで埋もれていて自分たちが気付かなかつた価値を見つけ出すということです。例を挙げると海女文化や海藻文化です。これらはすでに発掘されて世に出ています。他にも様々なコンテンツがこの鳥羽にはあるのではないかと考えていますので、そういったものを発掘していただきたいと思います。

今すでにあるものを磨くこと、今あるものを組み合わせで新しい価値を創ること、まだ眠っていて発掘されていないものの価値を見出すこと、その三つの価値をぜひ皆さんの力で掘り起こしていただきたいと考えております。

二つ目は、「地域共生社会」についてです。一昨年あたりから私もいろいろな場で地域共生社会について話してきています。健康福祉課や市民課の守備範囲が広いということもあって、その二つの課が担うべきではないかと勘違いされている方がたくさんおりますが、地域共生社会は全ての課に跨るものです。自分の課であればどんなことが地域共生に繋がるのか、そして、他の事業をサポートすることはできないか、そういったことを一生懸命考えてほしいと思います。例を挙げると、一番遠いと思われる税務課でも、郵便物を出す時に何か地域共生に関わるものを封入することはできないかとか、啓発事業の際に地域共生について話すことができないか。水道課であれば水道の利用者に対して、隣近所でチェックをしようという啓発をすることで、その地域で地域共生社会のきっかけが出てこないか、ひいてはそれが水道課の事業にもプラスとして跳ね返ってくるがあると思っています。どんな些細な事でも結構ですので、地域共生に繋がることはないか、くっつけることはできないか、皆さんで考える一年にしたいと思っています。

昨年もこの場でお話しましたが、皆さん、いろいろな事にチャレンジしていただき、何か間違いや失敗があれば私も一緒になって頭を下げに行きますし、全ての責任は私が当然取ることとなりますので、心置きなく、伸び伸びと仕事をしていただきたいと思っています。

今年一年間、どうぞよろしくお願ひいたします。

令和2年1月6日

市長 中村 欣一郎